

各 位

トモニホールディングスグループの平成29年3月期第2四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：遠山誠司）は、平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）、香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：下村正治）及び大正銀行（本店：大阪府中央区、頭取：吉田雅昭）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス
（1）平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）連結業績

当社は、平成28年4月1日付で、大正銀行と株式交換方式による経営統合（以下「本経営統合」という。）を実施いたしました。大阪地区を主要営業基盤とする大正銀行を傘下に加えることにより、広域金融グループの更なる進化を図り、将来の持続的成長に向けた経営基盤・事業基盤を拡充するとともに、今後の地域経済や金融機関の経営環境の変化を踏まえ、広域ネットワークの活用、各々の強みや各種ノウハウの共有・活用により、成長戦略の実現と付加価値の高い金融サービスの提供を行い、地方創生と地域経済の発展に貢献することを目指しております。

当第2四半期における損益状況は、経常収益は、本経営統合に伴い資金運用収益が増加したほか、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比5,148百万円増加して35,371百万円となりました。経常費用は、与信関連費用が減少したものの、本経営統合に伴い営業経費が増加したこと等により、前年同期比3,821百万円増加して27,440百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比1,327百万円増加して7,930百万円となりました。また、本経営統合に係る特別利益として負ののれん発生益14,849百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比15,969百万円増加して20,075百万円となりました。

当第2四半期末における総資産は前年度末比4,992億円増加して3兆5,792億円となり、純資産は前年度末比193億円増加して2,031億円となりました。

また、主要な勘定の残高につきましては、譲渡性預金を含む預金等の残高は前年度末比4,472億円増加して3兆2,043億円、貸出金は前年度末比4,170億円増加して2兆4,395億円、有価証券は前年度末比60億円減少して8,052億円となりました。

		平成29年3月期 第2四半期	前年同期比
損益	経常収益	35,371百万円	5,148百万円
	経常費用	27,440百万円	3,821百万円
	経常利益	7,930百万円	1,327百万円
	親会社株主に帰属する中間純利益	20,075百万円	15,969百万円
		平成29年3月期 第2四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	35,792億円	4,992億円
	純資産	2,031億円	193億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	32,043億円	4,472億円
	貸出金	24,395億円	4,170億円
	有価証券	8,052億円	△60億円
	自己資本比率（国内基準）	9.42%	△0.57%

（2）平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）連結業績予想

平成28年7月5日に公表しております平成29年3月期通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益）につきましては、以下のとおり修正しております。

①修正内容

平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想（A）	11,400	22,249
今回修正予想（B）	13,650	23,950
増減額（B-A）	2,250	1,701
増減率（%）	19.7	7.6

②修正理由

当社子会社の徳島銀行、香川銀行及び大正銀行において、第2四半期までの有価証券関係損益が当初予想を上回ったことや与信関連費用が当初予想を下回ったこと等から、平成29年3月期第2四半期累計期間の業績は当初予想を上回る結果となりました。こうした第2四半期までの業績を踏まえて、平成29年3月期通期の連結業績予想を上方修正するものであります。

2. 徳島銀行

(1) 平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少したこと等により、前年同期比374百万円減少して12,438百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと、外国為替売買損が増加したこと等により、前年同期比894百万円減少して9,608百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比774百万円減少して2,806百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少しましたが、前年同期比46百万円減少して2,718百万円となり、中間純利益は、前年同期比7百万円減少して1,972百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金が増加し、前年度末比91億円増加して1兆3,893億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比63億円増加して1兆5,099億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比138億円増加して9,384億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.45%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比255百万円減少して19,994百万円、総与信に占める割合は2.10%となりました。

		平成29年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	12,438百万円	△374百万円
	コア業務粗利益	9,608百万円	△894百万円
	コア業務純益	2,806百万円	△774百万円
	経常利益	2,718百万円	△46百万円
	中間純利益	1,972百万円	△7百万円
	与信関連費用	532百万円	△512百万円
		平成29年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	15,520億円	169億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	13,893億円	91億円
	総預り資産	15,099億円	63億円
	貸出金	9,384億円	138億円
	有価証券	4,537億円	△362億円
	自己資本比率（国内基準）	9.45%	0.00%
不良債権	金融再生法開示債権額	19,994百万円	△255百万円
	総与信に占める割合	2.10%	△0.06%

(2) 平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）単体業績予想

平成28年5月13日に公表しております平成29年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）		（単位：百万円）	
	経常利益	当期純利益	
前回発表予想（A）	4,650	3,200	
今回修正予想（B）	5,450	3,850	
増減額（B-A）	800	650	
増減率（%）	17.2	20.3	

3. 香川銀行

(1) 平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下等により貸出金利息が減少しましたが、国債等債券売却益や株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比890百万円増加して14,870百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比31百万円減少して11,196百万円となりましたが、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、物件費の削減により経費が減少したこと等により、前年同期比37百万円増加して3,879百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用の減少や株式等関係損益の増加等により、前年同期比587百万円増加して4,146百万円、中間純利益は前年同期比552百万円増加して2,570百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、法人預金が増加したこと等により、前年度末比219億円増加して1兆4,034億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比204億円増加して1兆5,555億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前年度末比288億円増加して1兆1,348億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は10.41%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比575百万円減少して23,035百万円、総与信に占める割合は2.00%となりました。

		平成29年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	14,870百万円	890百万円
	コア業務粗利益	11,196百万円	△31百万円
	コア業務純益	3,879百万円	37百万円
	経常利益	4,146百万円	587百万円
	中間純利益	2,570百万円	552百万円
	与信関連費用	136百万円	△469百万円
		平成29年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	15,665億円	205億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	14,034億円	219億円
	総預り資産	15,555億円	204億円
	貸出金	11,348億円	288億円
	有価証券	3,083億円	△112億円
	自己資本比率（国内基準）	10.41%	△0.12%
不良債権	金融再生法開示債権額	23,035百万円	△575百万円
	総与信に占める割合	2.00%	△0.11%

(2) 平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）単体業績予想

平成28年5月13日に公表しております平成29年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）		（単位：百万円）	
	経常利益	当期純利益	
前回発表予想（A）	5,750	3,700	
今回修正予想（B）	5,550	3,300	
増減額（B－A）	△200	△400	
増減率（%）	△3.4	△10.8	

4. 大正銀行

(1) 平成29年3月期第2四半期（平成28年4月1日～平成28年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金が増加しましたが、利回りの低下等により貸出金利息が減少したこと等により、前年同期比161百万円減少して4,691百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比117百万円減少して3,792百万円、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比59百万円減少して504百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少しましたが、株式等関係損益が減少したこと等により、前年同期比301百万円減少して415百万円となり、中間純利益は、前年同期比44百万円減少して217百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、預金残高は、前年度末比42億円増加して4,358億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比49億円増加して4,536億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比31億円増加して3,745億円となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比1,223百万円減少して6,412百万円、総与信に占める割合は1.70%となりました。

		平成29年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	4,691百万円	△161百万円
	コア業務粗利益	3,792百万円	△117百万円
	コア業務純益	504百万円	△59百万円
	経常利益	415百万円	△301百万円
	中間純利益	217百万円	△44百万円
	与信関連費用	△154百万円	△177百万円
		平成29年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	4,822億円	42億円
	預金	4,358億円	42億円
	総預り資産	4,536億円	49億円
	貸出金	3,745億円	31億円
	有価証券	412億円	△42億円
	自己資本比率（国内基準）	6.48%	△0.05%
不良債権	金融再生法開示債権額	6,412百万円	△1,223百万円
	総与信に占める割合	1.70%	△0.35%

(2) 平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）単体業績予想

平成28年5月13日に公表しております平成29年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

平成29年3月期通期（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	650	450
今回修正予想（B）	750	450
増減額（B-A）	100	—
増減率（%）	15.3	—

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部
株式会社大正銀行 企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132
TEL：06-6205-8400